

山田彰 在ブラジル日本国大使挨拶

日本人ブラジル移住111周年特別式典

2019年7月8日, 於: 上院本会議場

レイラ・ド・ヴァレー上院議員,

ご列席の皆様

はじめに, 日本人ブラジル移住111周年を記念して, 本年もこのように素晴らしい機会を設けて頂きましたこと, また, 開催にあたり, レイラ・ド・ヴァレー上院議員のイニシアティブに御礼申し上げます。更に, サッカー伯代表のコパアメリカ優勝にお祝いを申し上げます。決勝の相手が日本でなかったのは残念でしたが, 私は決勝でのブラジルの勝利を大変喜んでいきます。

1908年, 最初の日本人移住者が伯に来て以来, 移住者は, 多くの困難に直面しつつも, 常に真摯に励み, 彼らの子孫は, 今日の伯の発展に大きく貢献するとともに, 伯社会の重要な一員となりました。現在, 伯における日系社会は約200万人を数え, 日本国内にも約20万人の伯人が住んでいます。

こうした人的絆に支えられる両国は、民主主義、自由、法の支配といった基本的価値観を共有しており、伝統的な友好関係を構築しています。これまでナショナル・プロジェクトと呼ばれる様々な大規模事業を共に実施してきました。例えば、セラード農業開発、ウジミナス、セニブラ、イシブラス、アルブラス、カラジャス開発などの大型官民協カプロジェクトが挙げられます。特に、セラード開発(PRODECER)は、セラード地域を世界有数の農業生産地帯に、伯を世界有数の大豆生産国・輸出国に変えました。日本人と伯人の双方が誇るべきプロジェクトであると考えます。また、我が国は、伯の都市インフラや地上デジタル放送の整備、防災対策、或いは、地域警察(交番)制度の導入等も進めてきました。

日本人ブラジル移住110周年を祝賀した昨年、8月に、この上院本会議場で特別式典を開催して頂きました。2019年、両国はそれぞれ新時代を迎えています。伯は、1月にボルソナーロ新政権が発足し、連邦議会も顔ぶれが大きく変わりました。そして日本では、5月に皇太子殿下が天皇陛下に即位され、令和というBeautiful Harmonyを意味する新しい元号とともに、新時代が始まりました。両国関係に関しては、本年1月に日伯首脳会談が実現し、両国首脳間の信頼関係が築かれました。2月には、マルコス・ホジェリオ上院議員を含め、若手議員の方々に訪日頂き、

新たな議会交流が始まりました。先月末には、G20大阪サミット出席のため、ボルソナーロ大統領が訪日されました。この機会に安倍総理と二度目の日伯首脳会談が行われ、今後、両国が、貿易・投資の一層の促進を目指していくとともに、治安、防災、環境保全、刑事司法、教育、ベネズエラ避難民支援等の幅広い分野で協力が進展していることを歓迎し、今後もさらなる協力を推進していくことで認識を共有しました。また、安倍総理からは、ボルソナーロ政権の諸改革への取組を評価する旨の発言がありました。本使としても、伯で各種の改革が進展すれば、多くの日本企業が再び伯に目を向け、企業進出や投資拡大に繋がると確信しています。

ボルソナーロ大統領は私に対して、「自分を日本の友人とあって欲しい」と仰いました。日伯両国は戦略的グローバル・パートナーとして、今後も、二国間協力の強化に加え、安保理改革を含む国連改革やWTO改革など様々な国際的な課題について、共に取り組んでいければと思います。

最後に、日頃から両国関係を支えて頂いている上院議員の皆様、議会・政府関係者、そして日系社会の皆様に対し、在ブラジル日本国大

使として、改めて心からの御礼を述べて、私の挨拶を終えたいと存じます。ご静聴ありがとうございました。(了)